



沢田内科医院

ニュースレター Vol.13

新年明けましておめでとうございます。

NHKの「プロジェクトX」をよく見ます。困難な仕事を成し遂げた人たちの感動の物語です。これを見てみると、「感動」が得られることや「やりがい」があることが困難な仕事を成し遂げるエネルギーになっています。動機づけということが仕事の上で非常に大切なことを教えています。

テレビを見ながら職員を採用する時のことを考えていました。面接では仕事を求めてきた人の話を聞いて人柄を見抜くのが本来の目的でしょう。しかし、私は、私たちの医院で行っている医療、これからのどのような医療を行っていきたいのかをくどくどと話し、それに共鳴できれば採用してきました。人の役に立つ「やりがい」のある仕事であることを理解している人と一緒に仕事をしたいからです。

医療従事者は、人の役に立っているということを実感できる恵まれた環境で仕事ができます。小さな医院ですが、患者さんとの間にかすかな「感動」を見つけ、「やりがい」を感じながら、診療に頑張りたいと思います。今年もよろしく願いいたします。

健康診断で異常と言われても、必ずしも病気ではない

《 検診を受けたら、結果を持ってきて下さい!! 》

がん検診の他に、検診では貧血や肝機能検査などがあります。これらは、命に直接結びつく病気を見つけるのにはあまり役に立ちません。むしろ、異常だと言われると、不必要な心配の種になることが多いです。

貧血 検診で見つかる貧血はほとんどが鉄欠乏性貧血です。治療を必要とすることは少なく、むしろ、鉄欠乏性貧血と言われた場合には、子宮筋腫や胃の病気など、出血している病気がないかを調べるの方が大切です。特に、男性の貧血は、何か病気が隠れている場合が多いので、単純に鉄欠乏性貧血として治療する前に、きちんと検査を受ける必要があります。また、年をとると、血液は少なくなってくるので、貧血と言われても、年相応の場合には治療の必要はありません。

肝機能検査 いわゆる肝機能の場合はどうでしょうか。最近、「C型肝炎ウイルス」、「B型肝炎ウイルス」の検査も節目の年齢の人は受けることができますが、検診で肝機能に異常があると言われる場合は、ウイルスによる肝炎は少なく、肥満による脂肪肝、アルコールによる肝障害が大

部分です。特に、 γ -GTPはお酒を飲むと上昇してきます。これは、「このままでは将来、肝臓を悪くしますよ」という警告だと受け止めていいでしょう。肝機能を解釈する場合には、肝臓が悪いことを心配するよりも、その裏に隠れている、コレステロールや中性脂肪が高くなる高脂血症、糖尿病、アルコールの飲み過ぎ、などに注意することがもっと大切です。

高脂血症、糖尿病 生活の変化により、コレステロールが高い人が多くなりました。中性脂肪も同じです。これらが高い場合には、まとめて「高脂血症」と言われます。糖尿病も症状がない時期に検診で見つかることが多くなりました。どちらも食事の影響が大きく、1回の検査で診断を確定することはできません。検査を繰り返したり、他の方法で本当に病気があるのかを確認する必要があります。

検診の結果は、受診時に持ってきて下さい

いずれにせよ、検診の結果を正しく解釈して、不必要な治療を行うことはなくしたいものです。逆に、糖尿病などは早めに発見して、合併症が進行しないようにしなくてはなりません。検診を受けた場合には、結果を持ってきて

下さい。私の方で結果を解釈してお知らせします。検診結果をカルテに貼っておくことで、私の方でも不必要な検査を繰り返すことを少なくすることができます。



内視鏡検査の時のウイルス感染は消毒で予防しています

内視鏡検査を行う場合に気をつけなければならないことの一つに、ウイルス感染があります。つまり、あるウイルスに感染した患者さんに使用した内視鏡の消毒が不十分であれば、次に検査を受けた患者さんが感染してしまうことです。内視鏡検査で感染が広がることは非常に少ないのですが、肝炎ウイルス、結核菌、エイズウイルスなどが問題となります。また、潰瘍の再発に関係するヘリコバクター・ピロリも感染することが知られています。

内視鏡検査の前に、これらのウイルスに感染していないかをチェックしてから内視鏡検査を行っている病院もあります。このような病院では、内視鏡検査のために受診しても、ウイルス感染がないかの検査を先に行いますので、日を改めて内視鏡検査を行うこととなります。これでは私が目標とする「結論を早く出す」方針に合いません。私たちの医院では、食事をしてこなければその日に内視鏡検査を行っているからです。

これまでは、ウイルス等に感染していないか患者さん側をチェックすることに注意が向けられていましたが、私は内視鏡検査を行う患者さん全員にウイルス検査をすることは現実的ではなく、また、この対策自体が不十分だと考えています。血液検査自体も100%正しいという確証もありません。ヘリコバクター・ピロリは

潰瘍の患者さんであれば検査をしていなくても感染があると考えなければなりません。結核菌にも対処できていません。ですから、患者さん側の感染の有無で対応すること自体に無理があるのです。どんな感染症の患者さんが受診してもそれに対処できる体制を作ることが最も重要なことなのです。

従来の消毒剤は消毒に1時間近くかかりますので、多数の患者さんの検査には対応できませんでした。このために患者さんに感染症があれば、順番を変えてその日の最後に検査をしたり、別の内視鏡を使うことで対応していました。最近、肝炎ウイルス、エイズウイルス、結核菌が短時間で死滅する消毒剤が開発されました。この新しい消毒剤を使うと、短時間で消毒を完了することができますので、受診した当日に感染症の有無で検査の順番を変えることなく検査を行うことができるようになりました。

私たちの医院では、昨年从这个消毒剤を使用しています。内視鏡検査自体はスムーズになったのですが、消毒剤の取り扱いに注意が必要のため看護婦の仕事が増えたことが欠点です。他にも優れた消毒剤がありますし、検査機器や消毒方法は年々進歩しています。今後も皆さんが安心して検査を受けられるように改良して行きます。

大腸がん検診で使われる便潜血検査は弘前で開発されたのですよ

人間ドックや検診では「大腸がん」の項目は「便潜血検査」で行われるのが普通です。この検査が陽性であれば大腸内視鏡検査や X 線検査による精密検査を勧められます。大腸がんやポリープがあると、便の中に目には見えない少量の血液が混じっていることが多いので、「便潜血検査」が行われるのです。

以前の「便潜血検査」は、豚肉や牛肉などに含まれる動物の血液が混じっていると陽性に出ますので、「ヒトの血液だけに反応する免疫学的便潜血検査」が考案されました。ヒトの肉を食べることはありませんから、便潜血検査が陽性であれば、自分の体から血液が出ているということになります。これを世界で初めて開発したのは、弘前大学の先生なのです。

弘前大学生涯学習教育研究センター齋藤博助教授がその人です。齋藤博先生は私と同じ年で、弘大第1内科では机を並べた仲です。この業績により、これまで各種の賞を受賞していますが、去年は日本対がん協会の特別賞である「朝日がん大賞」を受賞しました。非常におめでたいことなので、私と弘前市立病院の松川院長が有志に呼びかけ、昨年11月に祝賀会を開いてお祝いをしました。写真はその時の1枚です。

この「便潜血検査」による大腸がん検診が広く行われるようになった結果、最近では年間500万人をこえる受診者から8,000人以上の大腸がん患者が見つかっています。私の医院に登録された患者さんの数は、開業7

年あまりでやっと10,000人です。私は限られた数の患者さんと直接向き合って診療していますが、このようなすばらしい検査方法を開発した齋藤博先生は間接的に非常にたくさんの患者さんを救っていることになります。

なお、大腸内視鏡検査も、弘前大学第1内科が中心になって開発したものです。大腸ポリープを内視鏡を使って切除したのも弘前大学が世界で初めてでした。皆さんが何気なく恩恵を受けている便潜血検査と大腸内視鏡検査が弘前大学で開発されたものであることを私は誇りに思います。

便潜血検査は、集団検診では多数の人たちに大腸内視鏡検査や X 線検査を行うのは不可能ですので、大腸の病気がありそうな人たちを拾い上げて検査を行おうと開発されたものです。この検査で異常がないので病気がないというわけではありませんので、お腹が痛いなど症状がある人は、便潜血検査で異常がなくても大腸の検査は必要です。



医学に関する津軽弁 (その5)

『まぶぢ』

「まぶた、瞼」のことである。蚊に刺されて「まぶぢ」が腫れてしまうと、「まなぐ」あるいは「まなご」が見えなくなる。一重まぶたのことを「ふとまぶぢ」、二重まぶたのことを「ふたまぶぢ」という。このことから考えると、「まぶぢ」は目縁であり眼瞼全体ではなく、目のふちを指すのが本来の意味であろう。「ふとまぶぢ」はまた、夜、一睡も出来なかった時にも使われる。胃内視鏡検査は患者さんにとって苦痛をとまなう嫌な検査の一つのようです。しかし、実際に自分で経験してみると意外に楽で、眠られないほど心配して損をしたというほどの意味で、患者さんは「あんつこであんつこで、朝までふとまぶぢもさえねしてあった(心配で心配で、朝まで一睡もできなかった)」と言うことがあります。この中では、まぶたを一回も閉じなかったという意味で「ふとまぶぢ」という言葉が使われています。

ちなみに、不眠を訴える患者さんは、翌朝回診すると、「夕べは、一睡も出来なかった」とよく訴えますが、看護婦が夜に巡回した時はいびきをかいて眠っていることが多いものです。きっと、眠ったことも忘れるくらいぐっすり眠っていたのでしょう。



医院のホームページもご覧ください。
このニュースレターの内容はホームページと重複している部分が多いです。

診療時間

	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	診療						休診
12:30~2:00	昼休み		休診	昼休み			
2:00~6:00	診療		休診	診療			

時間外と休日は電話(37-7755)でご連絡をお願いします。
入院病棟に必ず看護婦がいます。

所在地

